

ABACのバーゼル銀行監督委員会宛書簡【仮訳】

平成23年6月1日

バーゼル銀行監督委員会
事務総長ステファン・ウォルター殿

拝啓、

APECビジネス諮問委員会（ABAC）はAPECに対する正式な民間部門諮問グループであります。APECの21カ国・地域を代表して、ABACはAPEC自身のイニシアティブと他の国際組織との対話を通じて、APECの目的を達成するための最良な民間部門の知見を提供しながら、APECの成功を支持する使命を負っています。

2010年のABACによるAPEC首脳宛提言の中で、我々は中小零細企業の金融へのアクセス改善を含む、キャパシティ・ビルディングを促進するための政策に対して、強い支持を表明致しました。

最近の世界経済見通しの中で、IMFはAPEC参加国・地域における広範で不均一な経済回復を指摘しています。こうした経済環境の中で、我々は中小零細企業の、とりわけ国際貿易に従事するための能力構築に焦点を当てた、持続的な発展に向けた継続的かつ確固たる努力が行われることを確認する必要があります。中小零細企業は、域内の総ビジネスの9割以上を占め、また域内全体の労働力の6割を雇用しており、APEC地域にとって極めて重要であります。

金融へのアクセスは、今日中小零細企業が直面する、最も重要な問題点の一つとして位置付けられて来ました。世界的レベルでは、3年前に存在した資本の流れ—資源に富む豊かな国・地域から、負債の多い先進国への資金の流れ—が同じ水準に回復することはなく、世界経済は遅く、一時的な経済回復を強いられています。

これを背景として、我々はバーゼル委員会に対して、低所得国の視点で貿易金融についてのバーゼルⅢの効果を見直すことを求めます。これは昨年11月に発表されたG20の求めに沿うものです。現時点において、バーゼルⅢは、とりわけ発展途上世界とAPEC地域における、中小零細企業向けの貿易金融の取引量とコストに、潜在的に影響を及ぼす可能性があります。貿易金融は元来、通常固定された、短期間かつ自己精算型の金融取引であり、リスクが低いと考えられます。従って、貿易金融はより危険な取引と同様の取り扱いをすべきではありません。これに対してバーゼルⅢは、

新興市場の輸出入活動における、とりわけ中小零細企業にとって、貿易金融の条件と金融アクセスを悪化させるという意図せざる結果を生む可能性があります。

我々はこのため、バーゼル委員会が貿易金融のリスク掛け目について十分な注意を払うことを求めます。中小零細企業はA P E C地域の経済成長の欠くべからざる要素であり、不利益を蒙らずまた経済活動に参加できる同等の機会を与えられるべきです。

敬具

署名

A B A C 議長及び金融・経済作業部会長